

砥部焼 250 年目の『命綱』プロジェクト「砥部焼関係団体支援事業」

砥部町が誇る砥部焼は、令和 9 年に磁器創業 250 周年という大きな節目を迎えます。長い歴史の中で育まれてきた白く丈夫な砥部焼の魅力は、地元で採れる良質な陶石によって支えられてきました。国の伝統的工芸品にも指定されており、今なお 80 余りの窯元が個性あふれる作品を生み出し続けています。

しかし現在、その陶石を採掘する町内唯一の事業者が受注を停止し、産地として存続の危機に直面しています。これは砥部焼の品質や生産体制、さらには 250 年続いてきた伝統の継承にも大きな影響を及ぼす恐れがあります。

江戸時代から脈々と受け継がれてきた歴史あるこの砥部焼を守るため、砥部町は、砥部焼協同組合など関係団体と連携を図りながら、必ず陶石の危機を乗り越え、次の 100 年につないでいきます。



愛媛県立松山南高等学校砥部分校魅力化支援事業

愛媛県立松山南高等学校砥部分校は、クリエイター・デザイナーとしての学習を基盤としている全国唯一の公立のデザイン科の単科校です。砥部町の観光基盤である「砥部焼」とも関わりが深く、地域の魅力を高め、地方創生につなげる重要な役割を担っています。

砥部分校では伝統の手仕事である砥部焼から、最先端の手仕事であるデジタル表現までを網羅する幅広いデザインを学ぶことができ、将来の礎を築くことができます。

令和 7 年度には「ゲームクリエーションコース」を新設し、生徒を全国から募集するとともに、県外生や自宅からの通学が困難な生徒を受け入れる町営の教育寮トベリエを開設しました。

令和 8 年度からは、分校生及び町内の中高生を対象に、校内にサテライトオフィスを構える株式会社オートクチュールによるデジタル人材育成塾を開講し、地元企業の情報発信など通じて、地域とも連携を深め、砥部分校の存続及び振興・発展のための魅力化支援事業に取り組んでいます。



屋内運動場空調設備設置事業

現代の日本の夏は猛暑化・長期化しており、児童生徒の体育館における活動中の熱中症リスクが非常に高まっています。また、小中学校の体育館は地域の避難所としても指定されており、近年多発する災害の際には、多くの町民が体育館で避難生活を送ることとなりますが、乳幼児や高齢者、体調の悪い避難者が空調設備のない体育館に避難すると、二次災害による災害関連死のリスクも高まります。

そこで、児童生徒の熱中症対策と避難所機能の強化のため、町内の小中学校の体育館に空調設備を設置することで、熱中症リスクから児童生徒の安全を確保し、快適な環境の構築による教育環境の改善を図るとともに、地域全体の防災力を高めるためのセーフティネットとしての機能強化に取り組んでいきます。



都市空間情報デジタル基盤構築支援事業

砥部町では、効率的で安全・快適なまちづくりを推進するため、最先端のデジタル技術を活用した「まちづくり DX」を進めています。本事業では、将来の指針となる「都市計画マスタープラン」や「立地適正化計画」等の策定を見据え、まちの地理空間情報を 3D デジタル化し、インフラとしてオープンデータ化を図ります。

これにより、都市開発における多角的なシミュレーションや高度なデータ分析が可能となり、限られた土地資源を有効活用した戦略的な都市計画の策定が進みます。さらに、危険区域などの災害リスク情報を 3D で可視化し、視覚的に分かりやすい防災情報を住民や企業に提供することで、地域の防災・減災力を飛躍的に高めます。

デジタルを活用した社会資本基盤の構築を通じて、災害に強く、持続可能でスマートな魅力ある都市空間の実現に取り組んでいきます。

